

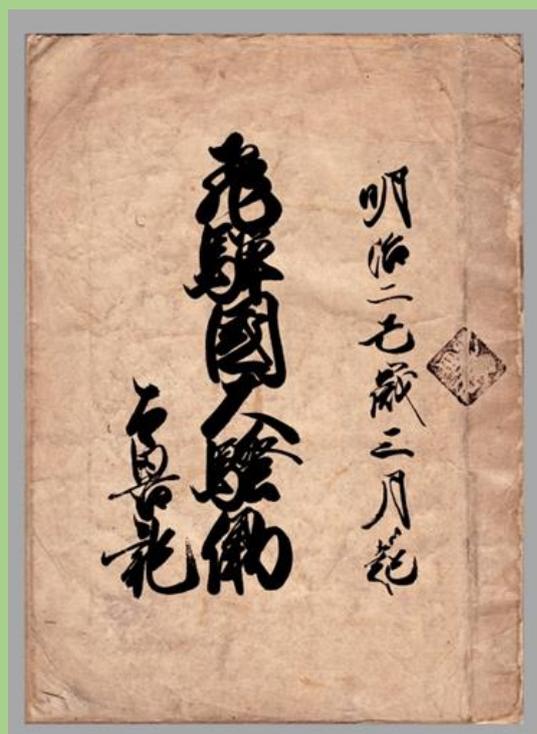
# 明治維新 150 周年

## ～「飛騨国大騒動太畧記」にみる益田の明治維新～

梅村騒動は、1869（明治2）年に梅村知事の諸政策に反対して起こった騒動でした。この騒動については、これまで多くの研究書や小説などによって紹介されていますので、今回は、益田を主な舞台として語られる『飛騨国大騒動太畧記』を中心に、『益田の明治維新』を読み取っていきます。

この本は、明治初年に、郡上郡東和良中原邑（現金山町岩瀬の中原区）の医師牧野龍枚が数多くの覚書に基づき、騒動をドキュメンタリータッチで描いた略記ですが、数多くの興味深い表現やこれまで殆ど知られていなかった記述が随所にあり、ノンフィクションとしての資料的価値とともに、当時の人々の思いや願いを想像することも出来るとても興味深い書といえます。

明治維新（大騒動）以来 150 年を迎えるにあたって、この本から明治という時代の始まりを探ってみましょう。当日の資料として、この本の「読み下し文（全文）」を皆さんにお配りします。



# 3/11 (日)



13:30 開場

14:00 開講

講師：東上田誌編集委員会事務局

遠藤卓たかし氏

会場：下呂交流会館 マルチスタジオ  
入場無料

主催：（一財）下呂ふるさと文化財団

### ■講師 遠藤卓氏 プロフィール

- ・1972年より2008年まで、岐阜県内の小中学校、高校で教員を務める。専門は世界史であるが、教員時代は「地域の歴史の教材化」にも力を注いだ。
- ・現在、東上田誌編集委員会、東上田の歴史を残す会、市文化財巡視員などを通して地域の文化や歴史の発掘や調査、子どもたちに昔を伝える活動などを行うとともに、甲信越、北陸、飛騨などの山川や湖、畿内の古寺を巡り風景写真を撮っている。